

- ・肩周りが温かくて軽くなった
- ・足の動きをたくさんしたので足が軽く感じる
- ・ゆっくりした呼吸を自分でもしてみるようになった、そうするとなんだか、いい気持ちになれるようだ

などの感想をいただきました。

●読み聞かせ

今回は「だいふくもち」という本を読みました。どのような内容かといいますと・・・
 ぐうたら暮らしをしていたごさくは、ある晩、床下の声に起こされます。「腹がひいて しょうがないきに なんか おおせ」「あずき おおせ」「あずき おおせ」・・・、それは、床下に300年も住みついていた「だいふくもち」でした。ごさくは、あずきを一ます貰って、食べさせます。すると・・・、だいふくもちは、こんまいもちを、つぎつぎとうみ始めたではありませんか！

うまいもうけ話ができたと、ごさくは思いました。もちがどんどん売れて、ごさくは大金持ちになります。しかし欲がでてきたごさくがむりやり小豆を食わせ続けると・・・もちは次第に小さくなり、やがては消えてしまいます。それとともにごさくも消えてしまいます。

ストーリーは何か教訓めいたものと捉えれば、その内容から「無理は禁物」「成功しても浮かれるな」という感じでしょうか。

読み終えたあと、ごさくも消えちゃったんだね・・・と念を押す人もいました。どのように感じられたのでしょうか？お聞きするのを忘れてしまいました。

話の展開はさておいて、この方言（高知県のなまり）の口当たりがとても良く、読んでいて気持ちが入ってきます。

●折り紙

今回は少し季節を先取りして「こいのぼり」です。

まず、ふつうサイズの折り紙で「真鯉」「緋鯉」を折り、ミニサイズ、ミニミニサイズの折り紙で「子どもたち」折ってみました。出来上がった「こいのぼり」に目とうろこをマジックペンで書いて出来上がりです。

選ぶ折り紙は毎回、皆さんに好きなものを選んでいただくので、個性豊かなこいのぼりがたくさん出来上がりました。そのままではつまらないので、A4サイズの色画用紙にパステル画の画材でポール、吹流し、矢車などを書いていただき、そこに木工用ボンドで形よく張り付けて出来上がり！

毎回、本当に楽しそうに参加してくださり、遊び心いっぱいの作品が出来上がります。

先月のお雛様がとても楽しかったようで、そんなに楽しんでいただけるのなら準備のし甲斐もあるものだとうれしくなりました。時間内に全部できなかつた方もいましたが、ゆっ

くりじっくり楽しんでいただけたらいいかなと思いました。

●今日の感想

火曜日あたりから福島も 20℃くらいの気温になり、桜がチラチラ咲き始めました。この仮設住宅のある地域は国見町内でも少し高台にありますので、町内は桜が 5 部咲きくらいですがここは蕾膨らむという感じでした。

参加者の皆様もあららと言っていました、始まった時と、終わった時、時間にして 2 時間余りですが桜の蕾の膨らみが変わっているのですね。そんな微妙な変化に気づける、なんてすばらしいことなんだろうと思わざるを得ませんでした。

きっと長い間、農業や牧畜に携わってこられたわけですので、そのような微妙な季節の変化をキャッチするセンサーが精妙なんだろうと改めて気づかされました。

新年度に入り村の除染作業も本格的に始まったそうです。また村の職員も 20 数名常勤で日中のみですが元の役場で役場機能を再開させ、できるだけ早い帰村に向けてスタートしたそうです。しかし時間の経過とともにもろもろの政治的な状況も複雑に絡み合っ、何が大切なかわからなくなってきました・・・というお話もお聞きしました。

何が何でも帰村させるという方向づけで動いているようだとも・・・。自分たちの世代はいいけれど、若い世代は・・・というジレンマもあるようです。

※来月の訪問は来年 5 月 8 日（木）の予定です。